

健康な人の口の中にはいろいろな細菌がいて、そのうちの「ミュータンス菌」がむし歯の原因になります。

ミュータンス菌は、食べ物や飲み物の中に含まれている糖分をもとにして、ネバネバしたプラーク（歯垢）をつくり歯の表面にピタッとくっつきます。ミュータンス菌は其中でどんどん増え続け、酸をつくります。この酸によって歯からカルシウムが溶け出し、むし歯になります。

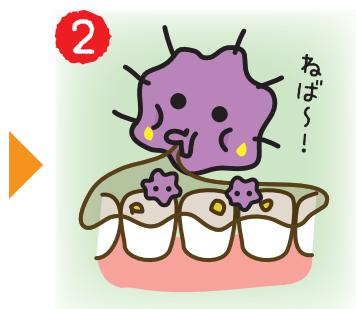
プラークを取り除くには、歯みがきをしっかり行うことが必要です。また、半年に1回は歯医者さんで定期健診を受けましょう。



むし歯ができるしくみ



1 むし歯菌（ミュータンス菌）が、口の中に残った食べ物から糖分をとり込む



2 むし歯菌は、ネバネバした物質を出してむし歯菌の巣であるプラークをつくる



3 プラークの中のむし歯菌が、酸を吐き出す

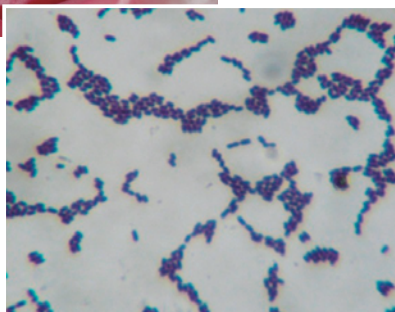


4 歯が酸によって溶かされて、むし歯になってしまう

キレイにみがいたつもりでも…赤く染まったところがプラークが残っているところです。



ミュータンス菌
細菌1つが1 μ m
(提供 尾関正美 2010)



赤ちゃんともミュータンス菌

生まれたばかりの赤ちゃんのお口の中にミュータンス菌はいません。多くの場合、赤ちゃんが離乳期の頃にお母さんからうつるので、お母さん自身のお口の健康も大切です。むし歯の治療・歯みがき・デンタルフロスの使用・規則正しい食生活に努めましょう。



同じスプーンを使ったり、口移しで食べさせるのはNGです。もちろん、お父さんやご家族も同じですね。



協力/ 三重県歯科医師会

〒514-0003 津市桜橋2丁目120番地の2 ☎059-227-6488 (代)

<http://www.dental-mie.or.jp>

日本歯科医師会
PR キャラクター よ坊さん(三重県)

